

# 学習支援の意義と組織体制

中井俊樹(愛媛大学)

## 講師紹介

- 三重県松阪市出身
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
- 大学教育論、人材開発論
- 教職員能力開発拠点代表者、SPOD企画・実施統括者
- 日本高等教育開発協会会長、大学教育イノベーション日本代表、大学教育学会理事



## 話題提供のねらい

- 大学は、学習上の課題を抱えている学生をどのように効果的に支援することができるのでしょうか。本話題提供では、高等教育の動向や『大学の学習支援 Q&A』の作成過程を踏まえて、大学が学習支援をどのように位置づけて、どのように組織的に実施することができるのかを考える論点を提供します。

## 構成

- **学習支援とその背景**
- 学習支援の組織的課題

## 高等教育政策の動向

- 学位プログラム化
  - 学修者本位の教育、各教員の属人的な取組から大学が組織的に提供する体系立ったカリキュラムへ
- 専門分野の知識習得だけでなく社会で活躍できる幅広い能力獲得も
  - 学士力、コンピテンシー、汎用的能力、トランスファラブルスキル
- 多様な学生の受け入れ
  - 多様な価値観を持つ多様な人材、留学生、社会人、障害のある学生など
- コロナ禍を通じた教訓
  - デジタル技術の活用、未来を切り拓く力の育成

## 政策文書での位置づけ

- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」
  - 「高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」=「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要である。」
  - 「今後、高等教育機関は、18歳で入学する日本人を主な対象として想定するという従来のモデルから脱却し、社会人や留学生を積極的に受け入れる体質転換を進める必要がある。また、障害のある学生が障害を理由に修学を断念することがないよう、体制や環境を整えていくことも必要である。」
- 「教学マネジメント指針」
  - 「将来を見据えたきめ細やかな履修指導を行えるようにすることが必要である。その際、教員のみならず、職員や専門スタッフ等が履修指導に携わることも視野に入れる必要がある。また、限られた資源を有効に活用する観点から、障害のある学生の支援やアカデミックハラスメントへの対応等、様々な形で行われる学生支援部門の集約も含め、部門を超えた修学支援体制の構築を図ることも考えられる。」

## 2022年の大学設置基準の改正

- 改正前の「第9章 事務組織等」第42条
  - 「大学は、学生の厚生補導を行うため、専任の職員を置く適当な組織を設けるものとする。」
- 改正後の「第3章 教育研究実施組織等」第7条3
  - 「大学は、学生に対し、課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導を組織的に行うため、専属の教員又は事務職員等を置く組織を編成するものとする。」

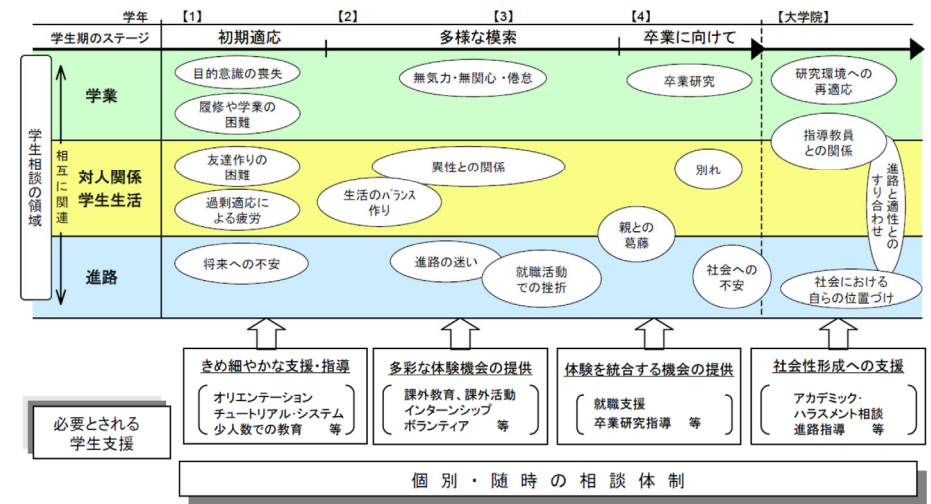
## 学習支援

- 「学生の学習にかかわる課題解決の支援を個別および組織的に提供する活動の総称」(清水、中井編 2022)
- この定義の特徴
  - 大学の幅広い学習支援の実践を包括
  - 学生の学習にかかわる課題解決の支援を目的
  - 個別および組織的な支援という形態

# 学習支援の概念の発展

- 学生支援の一部
  - 学生相談、学習支援、経済的支援等を主な柱（中央教育審議会大学分科会 2009）
  - 経済支援、学習支援、生活支援、キャリア支援（沖 2011）
  - 課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導（大学設置基準）
- 学習支援の実践の拡大
  - 学修支援センターの設置など、さまざまな学習支援の実践の充実

# 入学から卒業までの学生の課題



日本学生支援機構(2007)

# 3階層モデル

- 日常的学生支援
  - 日常的な学習指導、研究室運営
- 制度化された学生支援
  - クラス担任制度、アカデミック・アドバイザー、チュートリアル・システム、オフィス・アワー、ピアサポート
- 専門的學生支援
  - 学修支援センター、ライティングセンター、資格取得支援、障害のある学生支援

日本学生支援機構(2007)

# 多様な学習支援

- 誰が(支援者)
  - 学習支援センターなどの専門組織の教職員、学部・学科の教職員、ピアサポーターの学生...
- 誰を(対象学生)
  - すべての学生、留学生、障害のある学生、成績不良の学生...
- 何を(支援内容)
  - 履修指導、学習スキルの習得支援、授業内容に関する学習支援、資格取得支援...
- どのように(支援方法)
  - 個々の学生に対する面談、ガイダンス、セミナー、オンラインによる支援...

## 学習支援の2つのアプローチ

- 特定の知識や能力を指導するアプローチ
  - レポートの書き方がわからない学生であれば、レポートの書き方を説明し、段階的に身につけるための支援
- 自己確立や自律的な学習を促していくアプローチ
  - 成績不良の学生であれば、これまでの学習の振り返りや将来のキャリアの展望などから今後の学習計画を立てていく支援
- 大学設置基準の「指導及び援助等の厚生補導」に対応？

## 構成

- 学習支援とその背景
- 学習支援の組織的課題

## 多くの大学の学習支援の現状

- 各大学の学習支援の充実化
  - クラス担任制、オフィスアワー、ピアサポーター、ライティング支援、英語に関わる学習支援、資格サポート、教職支援室、アカデミック・アドバイザー、入学前教育プログラム、パソコンスキル支援、図書館の支援…
- 課題は組織としての学習支援の充実
  - 個々の学習支援活動の充実だけでなく、全体としての学習支援の充実

## 学習支援のための6つの指針

- 学生の自律的な学習を促す
- 学習目標の達成を目指す
- 関係者と連携する
- 倫理的に支援する
- 多様な学生を尊重する
- 自分自身の専門性を高める

## 学生の自律的な学習を促す

- 「人に魚を与えれば一日で食べてしまうが、釣り方を教えれば一生食べていける」
- 学生に対して安易に解答を与えるのではなく、自律的な学習ができるような支援
- 最終的には支援の必要がなくなる支援
- 指導と援助のアプローチのバランス

## 学習目標の達成を目指す

- 学生の目標と大学の目標
  - 学生の個人の目標の達成と大学が掲げる学習目標の達成の葛藤
  - 大学の学習目標とその意義を理解して、学生個人の目標と結びつけることを目指す
- 大学の学習目標などを正しく理解する
  - カリキュラム、その履修方法、正課外活動、学生支援、学習環境

## 関係者と連携する

- 自分の学習支援の限界に対する自覚
- 授業担当者や他の学習支援者との連携
- カウンセラーや精神科医による対応が必要な場合も
- リフェラルスキル(referral skills)
  - 適切な仲介の方法
  - 学生が見放されたと感じてしまわないように
  - 心理的障壁の軽減

## 倫理的に支援する

- 学生対する大きな力
  - 力を不適切に使用するとハラスメント
- 倫理に反する行為は明るみになりにくい
  - 閉ざされた空間で1対1で指導が行われることがある
  - 「結果的に成長したから過度に厳しい叱責が正当化される？」
- 法規を守るだけでなく、自らが第三者に説明できる支援を行う
- 教育や学習支援の倫理綱領の策定や倫理にかかわる研修の取り組みの必要性

## 多様な学生を尊重する

- 多様性の尊重
  - 編入学生、学生アスリート、社会人経験をもつ学生、障害のある学生、留学生…
  - 大学の活力の源
- 多様性の尊重は、個々の学生の尊重を基本
- ユニバーサルデザイン
- 合理的配慮
- 専門的學生支援の充実
  - 専門組織への丸投げには注意

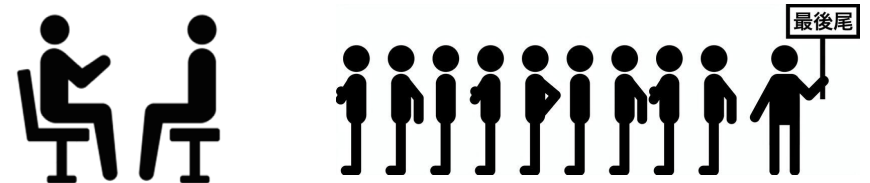
## 自分自身の専門性を高める

- 学習支援に関する知識にもとづいて専門性を高めしていく
  - たとえば、コーチングの具体的方法を学び活用してみる
- 自分自身の学習支援の実践を振り返ることで、学習支援の方法を改善していく
  - 省察的実践家としての側面
  - 学習支援は一度きりの場面や複雑な文脈のなかで、適切に判断し行動することが求められる
  - 経験とその振り返りを通して学習し、学習支援に対する自分なりの持論を形成

## 学習支援の評価

- 学習支援がうまくいったのかどうかはどのようにしたらわかるのか
- 学習支援の評価は難しい
  - 支援した学生数？
  - 学生の支援への満足度？
  - 学生自身の考えがまとめること？
  - 学生の学習の向上や学習習慣の改善？
  - 大学の掲げる目標の達成？

## 行列のできる相談所



## 学習支援を必要とする学生

- 学習支援を必要とする学生
  - 学習支援の評価指標の一つ？
  - 多いことはよいことなのか
- 本来必要性のない学習支援
  - オリエンテーションや履修の手引きなどの問題に起因
  - カリキュラムや授業の問題に起因
  - 大学がつくりだす面談のニーズに注意

## 学習支援の組織的課題

- 組織的な課題
  - 学生の学習支援のニーズの把握
  - 学習支援の意義と方針の共有
  - さまざまな学習支援の整理、役割分担、連携、広報
  - カリキュラムとの連携
  - 学習支援の評価と改善
- 2つの視点
  - ハードの側面（目的、組織構造、制度や規則、職務内容、研修、経営資源）
  - ソフトの側面（教職員の意識、コミュニケーションの方法、リーダーシップ、組織の文化や風土）

## 参考文献

- 沖清豪(2011)「学校化された高等教育機関における学生支援の「再」定義」『大学と学生』91、pp.41-48.
- 清水栄子(2015)『アカデミック・アドバイジング—その専門性と実践—日本の大学へのアメリカの示唆』東信堂
- 清水栄子、中井俊樹編(2022)『大学の学習支援 Q&A』玉川大学出版部
- 谷川裕稔、長尾佳代子、壁谷一広、中園篤典、堤裕之編(2012)『学士力を支える学習支援の方法論』ナカニシヤ出版
- 谷川裕稔、石毛弓編(2014)「ピアチューター・トレーニング—学生による学生の支援へ」ナカニシヤ出版
- 中井俊樹(2021)「面談を通した学習支援一標準的な5段階の方法とは」『教育学術新聞』令和3年2月24日号
- 中井俊樹編(2021)『大学SD講座2 大学教育と学生支援』玉川大学出版部
- 中井俊樹編(2022)『カリキュラムの編成』玉川大学出版部
- 中村和彦(2015)『入門 組織開発』光文社
- 日本学生支援機構(2007)『大学における学生相談体制の充実方策について—「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」』
- Gordon V. N. (1992) *Handbook of Academic Advising*, Greenwood Pub Group
- MacDonald, R. B. (1994) *The Master Tutor: A Guidebook for More Effective Tutoring*, Cambridge Stratford Ltd